

(2)夏は、どんな虫や植物が見つけれられるでしょうか

ねらい 学校や地域で夏の時期に生息する昆虫や植物を調べ、その活動の様子を捉える中で、それらの生態と気温との関係性を理解する。

ポイント 春時期からの虫や植物の姿の違いに目を向け、成長していることと春時期以降の温度上昇を、春の学習時と同様に気付いていくとよい。

◇関連学習単元

理科教科書 3年
「花がさいたよ」

理科教科書 4年
「暑くなると」

道徳科教科書 4年
P178～181

④0「『里山』とともに」

◇見付けた生き物の絵

春に描いたものと同種の虫や植物を描かせ、その変わり様を考えるのもよい。

◇見付けた生き物の確認

◇2018年6月後半～

9月前半の平均気温
(札幌管区気象台データ)
8月上旬をピークに次第に低くなっていく。

(2)夏は、どんな虫や植物が見つけれられるでしょうか

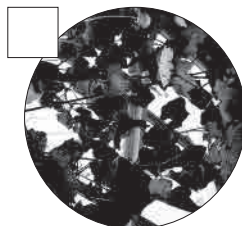
✎見付けた生き物の絵をかき入れてみましょう。

かんさつ
〈観察のポイント〉

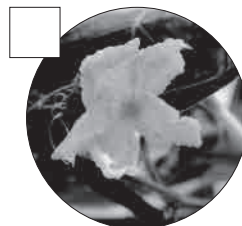
- 夏の生き物はどうなっているかな？
- 鳴く虫は、いるかな？
耳をすませて、聞いてみよう！
- 予想してみよう！
秋になったら？



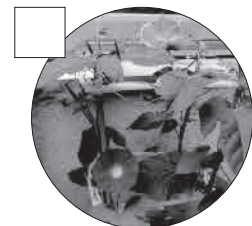
✎見つけたら、□に○をかきましよう。



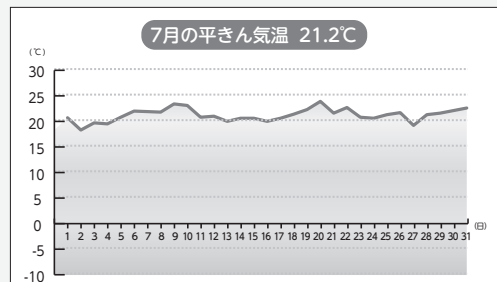
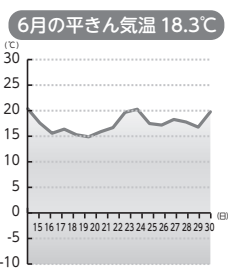
ヘチマ



ヒョウタン



アサガオ



留意点

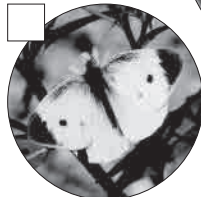
- 夏時期の野外の観察は、春時期の注意に加え、日射病や熱中症、スズメバチなどへの注意も必要であり、それに対する配慮も不可欠である。
- より正確に観察するために、使用上の注意を指導した上で、虫眼鏡（ルーペ）を積極的に活用していきたい。
- 虫や植物の成長による変化から、それぞれの体の仕組み（色、形、大きさ、足や葉・花の付き具合）にも目を向ける。



ナミアゲハ



キアゲハ



モンシロチョウ

ナミアゲハ、モンシロチョウ
写真提供（敬称略）：『札幌の昆虫』著者 木野田 君公



モンシロチョウの
よう虫へせい虫



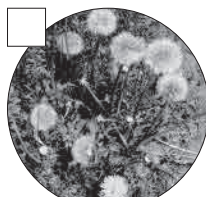
カブトムシの
育ち方



カブトムシ



ノコギリクワガタ



タンポポ



ヒマワリ

「カブトムシ」

おじいちゃん、おばあちゃんが子どものころにもカブトムシが札幌にいたかどうかインタビューしてみよう！
昔はなかった生き物が、どうして今はいるのか考えてみましょう。

◇関連学習単元

理科教科書 3年
「こん虫のかんさつ」

◇見つけた生き物の確認

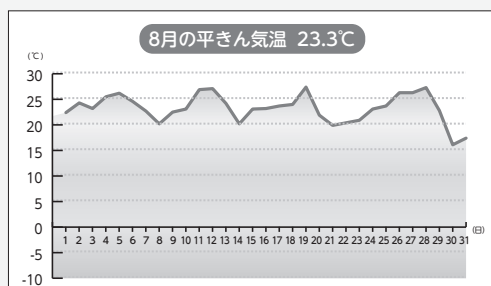
春の時期とは姿が変わっていることを、色・形・大きさなど、観点別に捉えさせていくとよい。そして、秋時期になるとこれらの昆虫や植物はどうなるか、気温の変化を見ながら考えるのもよい。

◇カブトムシは元来、本州以南で生息する昆虫で、北海道には生息していなかったが、1970年頃より人為的理由で生息・定着している（国内外来種）。

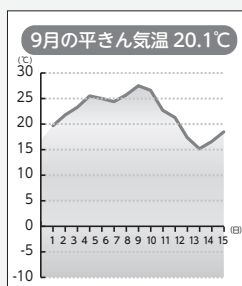
原因としては、飼育個体や養殖場からの逸出や販売業者の大量投棄、植栽樹木への混入など複数あるとされている。

※参考：北海道庁

自然環境課のページ
<https://www.pref.hokkaido.lg.jp/ks/skn/domestic/alien.html>



※令和5年8月23日、札幌市では今までで最も高い気温36.3°Cを記録し、最高気温を更新しました。



わたしたちのくらしと生き物